

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 16 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26284051

研究課題名(和文) 日本現代文学・文化の世界展開の比較文学的研究 &lt;ポップ&gt;なテキストを中心に

研究課題名(英文) Comparative Research on Japanese Contemporary Pop-Texts

研究代表者

平石 典子 (HIRAISHI, Noriko)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：20293764

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,100,000円

研究成果の概要(和文)：内外の調査と共同研究により日本現代文学・文化の海外への展開を分析・考察する作業を通して、本研究は、世界における日本文学・文化の位置付けを行った。複数の事例の精査により、従来は「日本文化」が「外国」の「他者」へ伝播している、と考えられていたものが、実は世界における新しい文学・文化現象の生成と関わるものであることが明らかになった。また、ポップ・カルチャーをひとつの主要分析対象とする本研究により、高級文化対大衆文化という二項対立にまだ閉じ込められがちな文化理解の中で、ポップ・テキストがこのような二項対立を越境する志向を明確に持っており、その点でも新たな文化の形を提示しつつあることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：Through the surveys and collaborative research conducted inside and outside Japan, this research has positioned contemporary Japanese literature and culture in the world. Focusing on the Japanese pop-texts--- animations which used to get broadcasted worldwide one after another from the 1970s, Manga, Games or other similar media based works, including literature and art works that bear a high affinity with these genres ---, the analysis and examinations of the cases from Asia, America, and Europe have not just simply deepened the "reception and transformation of Japanese Culture," but clarified the dynamism that sustains the pop-texts by pursuing evolution ensuing in global contexts. It became clear that Japanese pop-texts already got amply amalgamated with the global culture and keep producing new items. The research also clarified that the pop-texts have intention to cross the border between high and mass culture, deconstructing the binary opposition.

研究分野：比較文学

キーワード：比較文学 日本現代文学・文化 ポップ・カルチャー 海外展開 国際研究者交流

## 1. 研究開始当初の背景

インターネットが普及し、世界中の情報が瞬時に集められるようになった 2010 年代の社会において、文学・文化テキストの文化間の移動と変容や展開は従来にはない規模で日常化してきた。アニメやコミック、テレビ番組やインターネット配信の映像プログラムなど、現在ではサイバー・スペースでのアクセス抜きには語れない文化事象はもちろんのこと、文学作品においても「世界文学」が提唱される一方で電子書籍の普及が進むなど、あらゆる文化の領域で世界文化の同時性が顕著になりつつある状況の中で、日本の現代文化は、文化のグローバリゼーションの中のキープレーヤーのひとつとなってきたといえよう。同時に、ポップな日本文化が世界にどのように発信され、何を問いかけてきたのか、という問題の検証の重要性も高まってきたといえる。

研究代表者は、2013 年度まで「近・現代の他者表象におけるエクゾティシズムの諸相に関する比較文学的研究」というテーマで研究を進めており、文学作品が時間や空間を超えて読み継がれる際の、さまざまなレベルでテキストの移動/異同と、その流通の鍵としての「翻訳」についても考察してきた。しかしながら、内外の研究者との共同研究を含む研究を進める中で、日本の文学・文化が異文化の中でどのように紹介され、受容され、展開していくか、という点についての、さらなる研究の蓄積の必要性を強く感じるに至った。中でも、世界中で受容され、さまざまな文化に影響を残しながら、本格的な研究のあまりなされていない（とりわけ、いわゆるハイ・カルチャーに及ぼした影響が学問的に取り上げられていない）現代日本文学、ポップ・カルチャーの世界展開については、国際学会での学術発表と内外の研究者との議論の中で、その重要性が指摘された。その際、これまで比較的データがとられてきた西ヨーロッパ及び北米地域以外の地域での日本文学・文化の翻訳・翻案の状況やその影響については、事例は多くありながら、研究がほとんどなされていないことも複数の研究者が指摘した点であった。

そこで、日本のポップ・カルチャーの海外展開やその受容について研究を進めている研究者や、東・南ヨーロッパや中東、ロシア語圏、中国語圏における日本文学・文化の展開に詳しい研究者たちとの共同研究を展開する中で、日本現代文学・文化の世界展開についての比較文学的研究を構想するに至った。

## 2. 研究の目的

「日本現代文学・文化の世界展開の比較文学的研究—＜ポップ＞なテキストを中心に」は、現代日本において総合的・越境的な文化

活動として隆盛を見ているポップ・カルチャーの中で生成されたテキスト（マンガやアニメといった文化と不可分の文学やポップ・アートなども含むものとし、主として紙媒体のテキストを扱うものとする）が、どのように異文化の中で紹介され、翻訳され、また海外のハイ・カルチャーである文学や映画などにどのような影響を与えているかを精緻に分析し、その意味及び意義を、比較文学的視点から解明することを目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究は、20 世紀後半から現代に至るまでに出版・発表された一次資料の渉猟と調査、読解と綿密な分析のもとにおこなわれた。研究対象とした地域は、主にヨーロッパとロシア語圏であったが、これに中東や中国語圏の状況調査を加えることによって、研究に比較文学的な視野の広がりを持たせた。また、海外の研究協力者とともに調査や共同研究、研究会やシンポジウムを行うことで、日本文化の中では「自明」とされたり見過ごされたりする事象を、異なる文化の視点から再検証することを試みた。

研究課題としては、

- ①テキストの世界展開と翻訳・翻案
- ②ポップ・カルチャーの海外文学への影響の 2 点を設定し、研究分担者や研究協力者との共同研究などのもとに、調査及び分析を行った。その成果については、国際学会などで継続的に発表した。

## 4. 研究成果

内外の調査と共同研究に基づいて、日本現代文学・文化の海外（とりわけ、これまで研究がなされてこなかった地域）への展開を分析・考察し、その意味を問う、という作業を通して、本研究は、世界における日本文学・文化の位置付けを知ることができた。＜ポップ＞なテキストの海外への展開と、海外の作品への影響を、複数の事例研究から精査することにより、従来は「日本文化」が「外国」の「他者」へ伝播している、と考えられていたものが、実は世界における新しい文学・文化現象の生成と関わるものであることが明らかになった。

また、ポップ・カルチャーをひとつの主要分析対象とする本研究は、大衆文化がいわゆるハイ・カルチャーに影響を与えるという、伝統的な流れとは反対の文化的フローを検証するものであり、高級文化対大衆文化という、理解の枠組みを問い直すものであった。本研究を通して、サブ（ロー）／ハイという二項対立にまだ閉じ込められがちな文化理解の中で、ポップ・テキストがこのような二項対立を越境する志向を明確に持っており、その点でも新たな文化の形を提示しつつあることが明らかになった。

その成果については、国際的な発信と議論を行うことに注力した。メンバーそれぞれが多様な媒体で論文や著書を発表することで、研究成果を世に問うてきたほか、比較文学・日本研究・アジア研究などの大規模な国際学会に複数のメンバーでパネルを組んで参加するとともに、本科研の主催・共催で、代表者・分担者・海外研究協力者が成果を持ち寄る国際ワークショップを国内で1回（“Japanese Pop-Texts in Global Contexts” 2017年12月、筑波大学）、海外で3回（国際シンポジウム「翻訳・翻案と日本文化—テキストの世界展開をめぐって—」2016年3月、タシケント国立東洋学大学、国際シンポジウム「文化の対話と翻訳・翻案」2018年3月、タシケント国立東洋学大学）開催した。

また、これまでの共同研究の成果をまとめた書籍の出版も準備中である。主に研究課題①に関わる論集(*Moments of Modernity* (仮題)、代表者と海外協力者との共編)と、研究課題②の成果となる代表者・分担者の共編著 *Japanese Pop-Texts in Global Contexts* (仮題) についての編集作業を進めている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 20 件)

1. 平石典子、外国語(文学)を読む女たち—可憐な生徒から宿命の女へ、応用倫理—理論と実践の架橋、招待論文(査読無)、10別冊、2018、pp.6-13.
2. 大城房美、Daddy-Long-Legs 試論：現実主義への挑戦と日本少女小説「あしながおじさん」、教育実践研究、査読無、4、2018、pp. 91-102.
3. Takayuki Yokota-Murakami, How the ‘South’ Has Been Constructed? : Imaginary Africa of the Japanese Popular/Juvenile Literature and Comics, 表象と文化、査読有、XIII、2016、pp. 83-92.
4. 山中由里子、ドイツのポップカルチャー市場調査—2日目、月刊みんぱく、査読無、12月号、2016、10-11.
5. 山中由里子、ドイツのポップカルチャー市場調査—1日目、月刊みんぱく、査読無、11月号、2016、10-11.
6. Fusami Ogi, How a Shojo (a Japanese Girl) Transcends National Borders Through an Incestuous Body: Shojo Manga from the 1970s to the 2000s, *International Journal of Comic of Art*, 査読有、18-2、2016、pp.463-478.
7. 平石典子、海外で読む「日本の家族」—江國香織『綿菓子』から見えるもの—、日本語と日本文学、査読有、59、2016、pp.33-41.
8. 姚紅、台湾と中国における渡辺淳一文学の翻訳について—『失楽園』を中心に、

- 文学研究論集、査読有、34、2016、pp.69-84.
9. Noriko Hiraishi, The Poetic Imagination of Shōjo Manga: Ray Bradbury through Moto Hagio’s Eyes, *Area Studies Tsukuba* 査読有、36、2015、pp.127-138.
  10. Takayuki Yokota-Murakami, Cosmopolitanism and the Sociology of Japanese Comics, 表象と文化、査読有、XII、2015、pp. 95-102.

[学会発表] (計 71 件)

1. Fusami Ogi, How to Leave Behind Our Names: Creating Archives for Women and Manga, Archiving Popular Culture Symposium (招待講演、国際学会) LASALLE College of the Arts, Singapore、2018年3月18日
2. 平石典子、家族描写と異文化理解—重松清作品の翻訳をめぐって、国際シンポジウム「文化の対話と翻訳・翻案」(国際学会) タシケント国立東洋学大学、2018年3月17日
3. ヨコタ村上孝之、李恢成のサハリン、国際シンポジウム「文化の対話と翻訳・翻案」(国際学会) タシケント国立東洋学大学、2018年3月16日
4. 加藤百合、文学を翻訳する上の作品選択とアダプテーション—明治期の世界文学を例として—、国際シンポジウム「文化の対話と翻訳・翻案」(国際学会) タシケント国立東洋学大学、2018年3月16日
5. Raj Lakhi Sen, Re-thinking the Acts of Translation during the Time of Insurgency in Mori Ogai and Lu Xun’s Literary works: Trans-creating “The Tower of Silence 沈黙の塔”、国際シンポジウム「文化の対話と翻訳・翻案」(国際学会) タシケント国立東洋学大学、2018年3月17日
6. Noriko Hiraishi, Emergence of New Forms of Literature: The Challenges of Words and Images, International Workshop “Japanese Pop-Texts in Global Contexts” (国際学会) 筑波大学、2017年12月2日
7. Yuriko Yamanaka, Image of Europe through Japanese Animation: A Case Study of the Reception of “Heidi, Girl of Alps” in Iran, International Workshop “Japanese Pop-Texts in Global Contexts” (国際学会) 筑波大学、2017年12月2日
8. Yuri Kato, A Change in Women’s Features in Russian Literature and Movies: from Maturity to “Kawaii,” International Workshop “Japanese Pop-Texts in Global Contexts” (国際学会) 筑波大学、2017年12月2日
9. Raj Lakhi Sen, Politics of Translations:

- Doraemon playing the “Angel” in Indo-Pakistan Relationship, International Workshop "Japanese Pop-Texts in Global Contexts" (国際学会) 筑波大学、2017年12月2日
10. Noriko Hiraishi, Female freaks: provocative bodies in the 1990s, the 15<sup>th</sup> International Conference of European Association for Japanese Studies (国際学会) 新リスボン大学、2017年9月1日
  11. Takayuki Yokota-Murakami, Incest taboo across the boundaries: negotiation of brother-sister incest in modern Japanese literature through alignment with subordinate geography, the 15<sup>th</sup> International Conference of European Association for Japanese Studies (国際学会) 新リスボン大学、2017年9月1日
  12. Raj Lakhi Sen, Adapting Meiji Legal Codes: The re-presentation of jogakusei (school girls) in Miyake Kaho and Higuchi Ichiyo’s novels in relation to the Meiji adoption system, the 15<sup>th</sup> International Conference of European Association for Japanese Studies (国際学会) 新リスボン大学、2017年9月2日
  13. Noriko Hiraishi, The Complexity of Black Jack: Japanese Medical Dark Hero in the 1970s, 2017 American Comparative Literature Association Meeting (国際学会) ユトレヒト大学、2017年7月8日
  14. Takayuki Yokota-Murakami, Go Nagai’s Comic Divine Comedy: Devil-man’s Jihad against Satan and God, 2017 American Comparative Literature Association Meeting (国際学会) ユトレヒト大学、2017年7月8日
  15. Noriko Hiraishi, Mutual Correspondence Between Texts: The Fog Horn in Anime, Manga, and the Theatre, Association for Asian Studies Annual Conference 2017 (国際学会) Sheraton Centre Toronto Hotel、2017年3月17日
  16. Takayuki Yokota-Murakami, Disambiguation and De-sexualization of Genres: In the Case of Japanese "Light Novel" and Its Adaptations, Association for Asian Studies Annual Conference 2017 (国際学会) Sheraton Centre Toronto Hotel、2017年3月17日
  17. Noriko Hiraishi, Adultery Praised as True Love: The Paolo and Francesca Episode in Modern Japanese Literature, AAS-in-Asia 2016 (国際学会) 同志社大学、2016年6月27日
  18. Takayuki Yokota-Murakami, Prostitution; An Insult to Sacred Love or Just an Alternative Form of Sexuality?: Negotiation of Sexual Ideologies in Modern Japanese Literature, AAS-in-Asia 2016 (国際学会) 同志社大学、2016年6月27日
  19. Yao Hong, The Reception and Transformation of Japanese Literary Works Centering on Extramarital Love and Sex in Contemporary China, AAS-in-Asia 2016 (国際学会) 同志社大学、2016年6月27日
  20. 平石典子, メロンはMelonなのか?—文化的文脈の翻訳について—、国際シンポジウム「翻訳・翻案と日本文化—テキストの世界展開をめぐって—」(国際学会) タシケント国立東洋学大学、2016年3月17日
  21. ヨコタ村上孝之, 翻訳と「母語」イデオロギーの共犯関係について、国際シンポジウム「翻訳・翻案と日本文化—テキストの世界展開をめぐって—」(国際学会) タシケント国立東洋学大学、2016年3月17日
  22. 山中由里子, 物質文化を翻訳する—国立民族学博物館における展示解説の多言語化、国際シンポジウム「翻訳・翻案と日本文化—テキストの世界展開をめぐって—」(国際学会) タシケント国立東洋学大学、2016年3月17日
  23. Noriko Hiraishi, Manga and Fukushima: Subjectivity/Objectivity and Political Messages, Sequential Art and Catastrophes: Comics, Mangas, Graphic Novels (招待講演、国際学会) パリ第3大学、2016年2月12日
  24. 山中由里子, 比較怪物命名学—驚異と怪異の名づけと形象化、国際シンポジウム「東の妖怪・西のモンスター」(招待講演、国際学会) 学習院女子大学、2015年11月1日
- [図書] (計 12 件)
1. Fusami Ogi 他編、Palgrave macmillan、*Women’s Manga in Asia and Beyond: Uniting Different Cultures and Identities*、2018、印刷中
  2. Noriko Hiraishi 他編、Noriko Hiraishi、Takayuki Yokota-Murakami、Yuri Kato、Raj Lakhi Sen 他、Toshkent Davlat Sharqshunoslik Instituti、*O’zbekiston va Yaponiya Aloqalarining Dolzarb Masalalari: Til, Tarjima va Adabiy Jarayonlar*、2018、342
  3. 山中由里子 他、臨川書店、*地獄への招待*、2018、260
  4. ラージ・ラキ・セン 他、勉誠出版、*男色を描く：西鶴のBL コミカライズとアジアの<性>*、2017、240
  5. Takayuki Yokota-Murakami 他、Heteronimos、*El Fantasma de Gombrowicz: Recorre la Argentina*、2016、384

6. Takayuki Yokota-Murakami他、Belgrade、*Found in Translation: Transformation, Adaptation and Cross-Cultural Transfer*、2016、280
7. 姚紅他編、平石典子、加藤百合、姚紅他、春風社、*異文化理解とパフォーマンス*、2016、502
8. Noriko Hiraishi 編、Noriko Hiraishi、Raj Laksi Sen他、Institute for Comparative Research in Human and Social Sciences, University of Tsukuba、*Ruptures and Continuities of Japanese Modernization: Perspectives on Japan's Modern Transformation*、2016、301
9. Takayuki Yokota-Murakami他、Ideia、*Critical Reflections on Religion and Sexuality in World Literature*、2015、158
10. 山中由里子編、名古屋大学出版会、*<驚異>の文化史—中東とヨーロッパを中心に*、2015、528
11. 大城房美編、青弓社、*女性マンガ研究—欧米・日本・アジアをつなぐ MANGA*、2015、300
12. Takayuki Yokota-Murakami他、Cambridge Scholar's Press、*Women Past and Present: Biographic and Multidisciplinary Studies*、2014、293

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：  
 発明者：  
 権利者：  
 種類：  
 番号：  
 出願年月日：  
 国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：  
 発明者：  
 権利者：  
 種類：  
 番号：  
 取得年月日：  
 国内外の別：

[その他]  
 ホームページ等

## 6. 研究組織

(1)研究代表者

平石 典子 (HIRAISHI, Noriko)  
 筑波大学・人文社会系・准教授  
 研究者番号：20293764

(2)研究分担者

ヨコタ村上 孝之(YOKOTA-MURAKAMI, Takayuki)  
 大阪大学・言語文化研究科・准教授  
 研究者番号：00200270

山中 由里子 (YAMANAKA, Yuriko)  
 国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・准教授  
 研究者番号：20251390

加藤 百合 (KATO, Yuri)  
 筑波大学・人文社会系・教授  
 研究者番号：50326815

大城 房美 (OGI, Fusami)  
 筑紫女学園大学・文学部・教授  
 研究者番号：80289595

ラージ・ラキ・セン (SEN, Raj Laksi)  
 東京外国語大学・世界言語社会教育センター・助教  
 研究者番号：20795611

姚 紅 (YAO, Hong)  
 言語・文学研究センター・研究員  
 研究者番号：90727140

(3)連携研究者

( )

研究者番号：

(4)研究協力者

イルメラ・ヒジヤ＝キルシュネライト  
 (HIJIYA-KIRSHNEREIT, Irmela. ベルリン自由大学)

アンカ・フォクシェネアヌ (FOCSENEANU, Anca. ブカレスト大学)

関口 涼子 (SEKIGUCHI, Ryoko. 詩人・翻訳家)

マルコ・ペッリテッリ (PELLITTERI, Marco. ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学)

菅野 怜子 (SUGANO, Reiko. タシケント国立東洋学大学)